



義務教育学校開校に 関する説明会

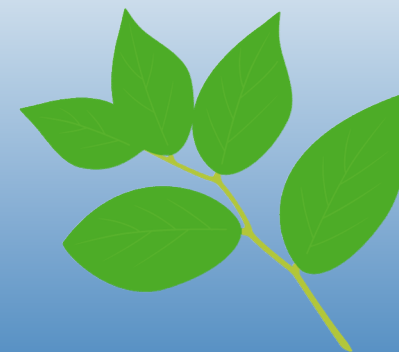
令和6年1月24日

町民総合センター 多目的ホール

飯豊町教育委員会

目次

1. 義務教育学校の設置及び校名の決定について
2. 開校準備委員会で協議してきた主な内容
3. 今後の見通しについて



1. 義務教育学校の設置及び校名の決定について



校名選定のポイント

- ◇新設校に対する夢や期待を表す名前であること
- ◇飯豊町の学校にふさわしい名前であること
- ◇読みやすい、言いやすい、親しみやすく、
長く使い続けられる名前であること

校名選定の留意点

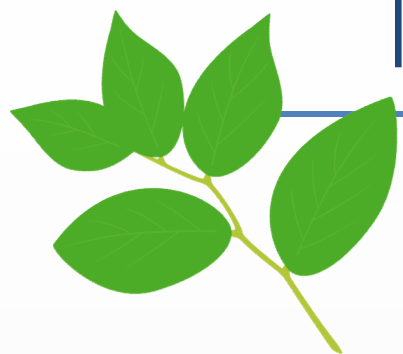
- ◇校名を広く募集する
- ◇応募数の多いものが校名に決定するものではなく、校名への思いを重視して選定する
- ◇教育委員会、総合教育会議の決定及び町議会の議決を経て正式に決定する

校名決定の経緯

令和5年 7月20日～ 8月23日	校名の募集	応募総数169、候補となる校名98
9月14日	開校準備委員会 総務部会	98の校名から候補を5つに絞り込み ①飯豊町立いいで学園(かな表記) ②飯豊町立飯豊学園(漢字表記) ③飯豊町立めざみ学園 ④飯豊町立いいでの森学園 ⑤飯豊町立いいでめざみ学園

校名決定の経緯

9月21日	開校準備委員会	5つの校名から候補を3つに絞り込み ①飯豊町立いいで(飯豊)学園 (かな又は漢字表記) ②飯豊町立いいでの森学園 ③飯豊町立いいでめざみ学園
10月 2日	教育委員会	上記3つの校名を候補として承認
10月26日	総合教育会議	校名の候補を 「飯豊町立いいでの森学園」に決定
12月12日	町議会	飯豊町立学校設置条例の一部改正を 可決・承認 義務教育学校の設置と校名が正式決定



「飯豊町立いいでの森学園」

校名への思い

- 「いいで」のことばで、町唯一の学校であることを示したい
ひらがなゆえの優しさとやわらかさ
- 「いいで」に「森」を加えることで、学校への期待と願い
を込める
- 子どもたちが自然環境と共生し、未来を拓いてもらいたい
- 森の多様性のよう、一人一人の個性を生かした学校を創る

2. 開校準備委員会で協議してきた主な内容



開校準備委員会で協議してきた主な内容

- ・校章をデザイン公募により選定(現在、募集中)
- ・閉校式は、町が主催する。式典以外の記念行事は各校ごとの実行委員会等で主催する

開校準備委員会で協議してきた主な内容

◆校是：「日々明朗 日々努力」

※飯豊中学校校是を継承

◆めざす学校像

「未来を拓き、町と伸びゆく いいでの森学園」

◆めざす教師像

「使命感をもって、高め合い、

子どもとともにある教師」

開校準備委員会で協議してきた主な内容

◆学校教育目標

- ① 自ら考え、判断、表現し、主体的に学ぶ力を身につけた子ども
- ② たくましい心と社会性を身につけた心豊かな子ども

開校準備委員会で協議してきた主な内容

◆学校教育目標

- ③ 「いのち」を大切にし、自ら体力を高め、
健やかな体をもつ子ども
- ④ 「グローバル」の視点をもち、飯豊を愛し、
地域に貢献する子ども

開校準備委員会で協議してきた主な内容

◆リーダー育成の方針

- ・学校行事とステージ別活動(体験・奉仕等)を中心に行う
- ・児童会・生徒会(5～9年生)とファーストステージ児童会(4年生基本)で活動し、リーダーを育成する

開校準備委員会で協議してきた主な内容

◆主な学校行事の方針

- ・入学式、修了式・卒業式、運動会は、中学舎に全校児童生徒が集まって行う
- ・始業式・終業式…3学舎合同の全校児童・生徒で行う(含むオンライン)
- ・1～4年生の学習発表会は2学舎合同

開校準備委員会で協議してきた主な内容

◆主な学校行事の方針

- ・5・6年生の学習発表会と7～9年生の合唱コンクールは5～9年生が合同
- ・修学旅行は8年生と6年生、宿泊訓練学習は5年生で実施
- ・今後、学校行事ごとの具体的な検討を進める

開校準備委員会で協議してきた主な内容

◎通学の在り方(スクールバス通学)

■北学舎(現第一小)

	1~4年生
夏期 (4月~11月中旬)	・北学舎から住所までの距離が2km以上ある児童(行政区単位で対象)
冬期 (11月中旬~3月)	

開校準備委員会で協議してきた主な内容

◎通学の在り方(スクールバス通学)

■ 中学舎(現飯豊中)

	5・6年生	7～9年生
夏期 (4月～ 11月中旬)	<ul style="list-style-type: none">現第一小・現手ノ子小・現添川小校区の児童	<ul style="list-style-type: none">高峰・中津川地区の生徒仮設の大巻橋を渡って通学する必要がある生徒
冬期 (11月中旬 ～3月)	<ul style="list-style-type: none">中学舎から住所までの距離が2km以上ある現第二小校区の児童(行政区単位で対象)	<ul style="list-style-type: none">中学舎から住所までの距離が3km以上ある生徒仮設の大巻橋を渡って通学する必要がある生徒

開校準備委員会で協議してきた主な内容

◎通学の在り方(スクールバス通学)

■南学舎(現第二小)

	1~4年生
夏期 (4月~11月中旬)	<ul style="list-style-type: none">・ 現手ノ子小学校・現添川小学校区の児童
冬期 (11月中旬~3月)	<ul style="list-style-type: none">・ 南学舎から住所までの距離が2km以上ある現第二小学校区の児童(行政区単位で対象)

開校準備委員会で協議してきた主な内容

◎通学の在り方

【徒歩通学の安全対策】

- ①安全な通学路の設定
- ②保護者・地域住民の協力による見守り体制構築
- ③関係団体による通学路安全点検の実施

開校準備委員会で協議してきた主な内容

◎通学の在り方

【7～9年生の通学方法】

現在の通学方法と同じ

- ・春～秋は、自転車での通学
- ・冬期間は、徒歩またはスクールバスでの通学

開校準備委員会で協議してきた主な内容

◎通学の在り方

【(仮称)スクールバス運行検討委員会の設置】

令和9年度以降は、学校、PTA、教育委員会等で構成する(仮称)スクールバス運行検討委員会を開催して、見直し、改善を図っていく。

3. 今後の見通しについて



令和6年度の主な計画

①校章の策定・・・現在、デザイン募集中

②制服・運動着・カバン・シューズの選定

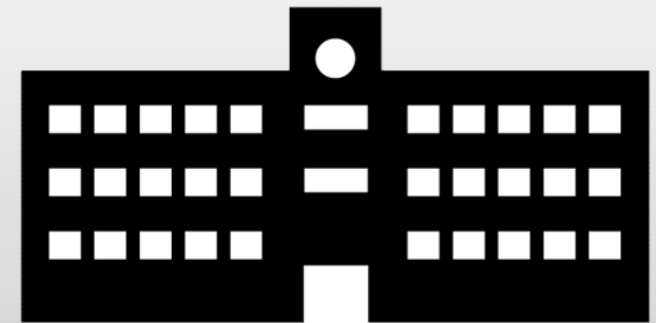
・・・アンケート結果集計中

③校歌の制作・・・作詞・作曲を音楽家へ委託

(作詞:村田さち子氏 作曲:池辺晋一郎氏)

令和6年度の主な計画

- ④学校運営や教育カリキュラムなど具体的な計画づくり
- ⑤PTA・後援会・学校運営協議会の組織づくり
- ⑥閉校式・記念行事の計画づくり
- ⑦開校式の計画づくり



令和6年度の主な計画

⑧スクールバス運行ルートなどの計画づくり

⑨学校備品・保管文書の移管に向けた整備 等々



教育委員会からの情報発信

開校準備委員会だより

- 全戸配布にて発行します
- あ～す、各地区公民館でも
バックナンバーを閲覧できます



◆◆第4回 開校準備委員会を開催しました◆◆

と き 令和5年11月16日(木) 午後6時30分より

ところ 町民総合センター あ～す

報告並びに協議 ○事務局、各専門部会の報告事項について

*報告事項及び協議の上、承認された事項は以下の通りです。



事務局より報告したこと

■義務教育学校の「校名候補」が決定

本委員会で選定した3つの候補について、教育委員会・総合教育会議において協議し、以下の校名候補に決定しました。なお、校名は、12月定例議会の条例改正案の議決を経て正式決定となります。

飯豊町立いいでの森学園

<校名候補に込めた思いや願い>

「いいで」

- 飯豊町に生まれ育ったことに誇りを持ってほしい。
- 「いいで」のことばで、町唯一の学校であることを示したい。
- 「飯豊」は眺みにくいことも踏まえ、ひらがなの「いいで」で優しさやわかさを表したい。

「森」

- 飯豊町の子も達が町のシンボルである豊かな自然、そしてその代表格である森に育まれながら健やかに成長してほしい。
- これからの時代を生きる子ども達には、環境との共生、特に森(自然)の恩恵を受けて生きてほしい。
- 森にはいろいろな木々と多様な植物があるように、一人一人の個性を生かして学校を創っていきたい。
- SDGsの基本理念である「誰一人として取り残さない社会の実現」と持続可能なまちづくりをめざす飯豊町にとって、森(自然)は豊かな生活を測る指標となります。子ども達には、豊かな環境の中で、自然に感謝し自然の一員として生きてほしい。

■義務教育学校の各校舎の呼称を確認

これまで仮称としていた各校舎の呼称を、今後、以下のように確認しました。

- 「北学舎(きたがくしゃ)」 現第一小
 - 「南学舎(みなみがくしゃ)」 現第二小
 - 「中学舎(なかがくしゃ)」 現飯豊中
- 「学んでいく」建物としての感謝を、子ども自身が強く持つことを願い、校舎ではなく「学舎」という呼称としました。



▲飯豊町学校研究発表会 R5.11.17
飯豊町内の全教職員が集まり、子どもの授業づくりを学び合いました。

広報いいで連載記事

あ～す、各地区公民館でも バックナンバーを閲覧でき ます。

第6回

義務教育学校とはどんな学校？（前編）

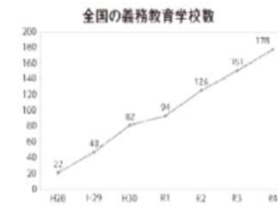
町が、令和8年度までに義務教育学校開校を決めた理由をこれまで説明してきましたが、今回は、そもそも「義務教育学校」とは、どんな学校なのかを解説したいと思います。



義務教育学校は、学校教育法の改正で平成28年に新しく定められた学校制度です。小学校から中学校までの義務教育を一貫して行う学校で、小学生と中学生が同じ校舎で学び、学校生活を共にします。私たちの慣習となっていた、6・3年制の小・中学校が、6年生の学校になるといわれていますから、大変革です。

全国的に義務教育学校は、増加傾向にあります。令和3年度に151校だった義務教育学校は、翌年度の1年間で27校増え、令和4年度は全国で178校となっています。山形県内では、新庄市に2校（明倫学園と森野学園）、戸沢村に1校（戸沢学園）あります。

小学校と中学校が一体となることで、どんなメリットがあるのでしょうか。町にとっての大きなメリットは、複式学級の解消があげられます。児童・生徒が揃うことで、そのスケールメリットを生かし、多様な学校環境をつくりだすことができます。子どもたちのさまざまな個性に触れ、切磋琢磨により社会性を育む学校を目指しています。



義務教育学校の大きなメリットです。中1ギャップとは、子どもが小学校から中学校への進学で、新しい環境での学習や生活に戸惑い、不適応を起こしてしまう現象です。義務教育学校は、小学校から中学校への接続が円滑であることから、子どもにとって環境の変化が小さく、中1ギャップによる不登校の減少が期待できます。

学習面でもメリットがあります。それは、小学校の先生と中学校の先生が同じ学校に在籍していることにあります。一例として、現在、小学5・6年生は、英語の教科が必修科目になって

義務教育学校のメリットの例

- ・複式学級の解消
- ・指導する時期（学年）や指導時数の柔軟性
- ・系統性・連続性を意識した小中一貫教育
- ・中1の壁・小中ギャップの緩和・解消
- ・異学年交流による精神的な発達
- ・継続的な生徒に対する指導

います。小学校では、英語が専門ではない学級担任の先生が教えるケースが一般的です。一方、義務教育学校には英語を専門とする中学校の先生がいますので、英語を専門とする先生が5・6年生に直接指導することができるようです。小学校課程の一部に教科担任制（教員が特定の教科を担当し、授業を行うこと）を導入し、先生の乗り入れ指導により、子どもたちにより効果的な授業を組むことができます。また、中学生にとっては、小学校の先生が同じ学校にいて、学習面や生活面でつまずいたとき、小学校の先生にさかのぼって相談できる安心な環境があります。

ただ、義務教育学校にも想定されるデメリットがありますので、次回は、その点についても触れたいと思います。

飯豊町で新しい学校教育が始まります

魅力ある義務教育学校の開校を目指して

教育委員会からの情報発信

義務教育学校に関する質問箱



あ～す、各地区公民館
に質問箱を設置しました
ので、どうぞご活用
ください。

説明会の開催

教育委員会からの情報発信

- R5. 4.25 民生委員・児童委員総会
- 6.24 手ノ子地区地域づくり座談会
- 10. 8 椿地区地域づくり座談会
- 10.19 義務教育学校開校に関する説明会
- 11.10 黒沢地区地域づくり座談会
- 11.12 高峰地区地域づくり座談会
- 11.14 部落長等会全員研修会
- 11.18 東部地区地域づくり座談会
- 11.29 小白川地区地域づくり座談会
- 12.17 中地区地域づくり座談会
- R6. 1.24 義務教育学校開校に関する説明会

今後も適宜に
説明会を
開催します